

大学図書館の 学習支援における学生協働

島根大学附属図書館
図書館コンシェルジュの取り組み



島根大学附属図書館
昌子 喜信

2013.10.28 千葉大学アカデミック・リンク・セミナー

1

アウトライン

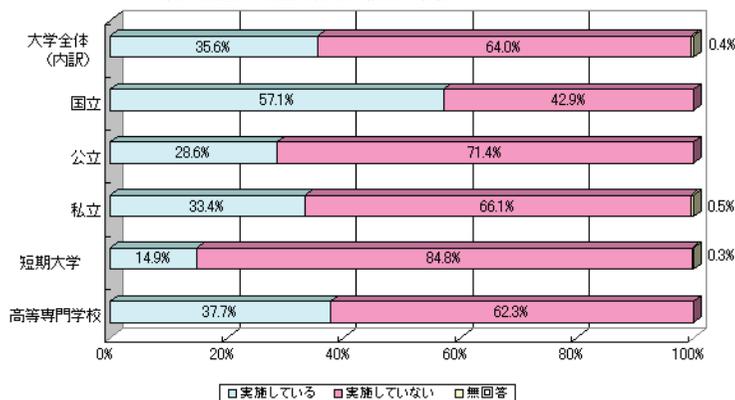
- 大学及び大学図書館における学生協働の取り組み状況
- 島根大学図書館コンシェルジュの概要
- 島根大学図書館コンシェルジュの活動状況
- 評価と課題
- 今後の展開

2

大学における学生との協働

- ピアサポートの実施状況(2010<H22>)

日本学生支援機構、大学、短期大学、高等専門学校における学生支援の取組状況に関する調査(平成22年度)集計報告より転載



3

大学における学生との協働

- 支援内容

支援内容	割合
学生生活支援	50.2%
学習サポート	48.1%
学生コミュニティ形成支援	34.6%
履修相談	32.5%
その他	20.0%

日本学生支援機構、大学、短期大学、高等専門学校における学生支援の取組状況に関する調査(平成22年度)集計報告による

4

大学における学生との協働

- 学生協働(ピアサポート)が必要となった背景
 - 学生の心理的問題の多様化に対して、専門家による相談窓口だけでなく、より軽微な問題の段階で気軽に相談できる窓口を開設して、早期に解決する必要が生じた。
 - 近年の大学改革に伴ってかえって複雑化・専門化する種々の相談窓口に、学生を適切につなぐため。
 - サークル活動やクラスのまとまりが低下する傾向がある中で、これまで自発的に行われていた学生の潜在的な能力の開発を、相談活動を通じた学生同士の交流によって意図的に促す必要が生じた。

(杉村ほか, 2006)

大学図書館における学生協働

- 活動内容面における類型

類型	活動例
学習(学修)支援	<ul style="list-style-type: none"> ・個別分野の学習指導 ・レポート・論文作成指導 ・特定の授業とリンクした支援
図書館利用支援	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館ツアー ・新入生オリエンテーション ・情報検索講習会 ・サービスカウンターでの対応 ・ICT機器サポート
図書館業務支援	<ul style="list-style-type: none"> ・配架/書架の乱れ直し ・お薦め図書の紹介 ・広報誌の作成 ・学生選書
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・履修登録サポート ・学生生活相談 ・キャリア支援

大学図書館における学生協働

- 類型毎の取組み事例数

類型	図書館数	割合	(参考)学生協働まっぶ事例数
学習(学修)支援	24	4.9	28
図書館利用支援	106	21.7	46
図書館業務支援	0	0	46
その他	76	15.5	10
学生スタッフの関与なし	217	44.4	
学生スタッフはいない	161	32.9	

・呑海, 溝上による4年制大学を対象とした「学生スタッフの学習支援サービスへの関与」についての調査結果を基に作成。(呑海, 溝上, 2011)
 ・参考として、「学生協働まっぶ」に掲載された事例をもとに、ふじたが2012年に再調査した結果を付す。「学生協働まっぶ」の категорияは、a)図書館業務サポート、b)学生選書、c)学習支援、d)学生サークル・その他としているため、a)b)を合計した数値を図書館利用支援+図書館業務支援の欄に集計している。(ふじた, 2012)(八木澤, 2013)

大学図書館における学生協働

- 組織面における類型

観点	類型
設置主体	図書館/学内の他部署
組織形態	イベント的/恒常的
募集方法	学部等からの推薦/図書館で公募/学生スタッフによる勧誘
研修方法	他部署の研修プログラム/図書館職員/学生スタッフ
報酬	有/無
活動形態(1)	図書館主導(業務的)/学生主導(自主的・自発的)
活動形態(2)	対等的・同等的/専門的・指導的

島根大学の概要

- 松江キャンパス
 - 学部構成
 - 法文学部／教育学部／総合理工学部／生物資源科学部
 - 学生数
 - 学生 4,501人 大学院生 497人
 - 附属図書館本館
 - 蔵書冊数 図書約73万冊
- 出雲キャンパス
 - 学部構成
 - 医学部(医学科／看護学科)
 - 学生数
 - 学生 909人 大学院生 218人
 - 医学図書館
 - 蔵書冊数 図書約13万冊

島根大学正課ピアサポート・プログラム

- 学士課程教育の質保証・向上を目的に、学生同士において「助ける」「助けられる」の相互関係を構築していくプロセスを対象とした教育プログラム
- サポートが必要な学生にとっては、カリキュラムや文脈を共有する上級生や同級生から日常的にサポートを受けられるサポートプログラムとして機能
- サポートを行うサポーターは、サポートを必要としている学生の問題に主体的に関わることで、コミュニケーション力をはじめとした学士力や社会人基礎力を育むキャリア教育プログラムとして位置付ける

「島根大学正課ピアサポート・プログラムに関する要項」(教育開発センター)より

島根大学正課ピアサポート・プログラム

サポーターの種別	活動内容	活動例
選抜サポーター (部局内で取り決められた基準に沿って選抜)	・授業外学習の支援	・学習室の運営 ・個別学習指導 など ・ <u>学習サポートデスク</u> (図書館内で2012(H24)年度から試行開始)
自主参加サポーター (公募による、学力に関しては非選抜)	・学習にまつわる支援 ・キャリア教育面が強調される活動	・ <u>履修指導</u> ・ <u>図書館コンシェルジュ</u>
コミュニティ・サポーター (学生の自主的な活動)	・学習コミュニティにおける支援	・自主ゼミ

図書館コンシェルジュの目的

- 図書館サービスに学生の視点を取り入れて図書館利用を活性化させる
- サポートを受ける学生の図書館や学術情報を使う力の育成を支援する
- 図書館コンシェルジュとなった学生自身の学びと成長(キャリア形成)を支援する

図書館コンシェルジュの活動内容

- 図書館サービス改善の企画・実施
 - コンシェルジュの発案による様々な企画と実施
eg.書架の分類見出しの作成、館内マップ作成、図書企画展示、パスファインダー作成、月刊広報誌LiMeの編集・発行
etc.・・・
- 正課外での図書館利用サポート
 - 授業時間割に対応した1日5コマに1～2名が担当
 - サービスカウンター／閲覧室フロア(返却作業をしながら)
 - 図書館ツアー(オープンキャンパス時など随時)
- 正課授業と連携したサポート
 - 「スタートアップセミナー」との連携
- 学生協働交流シンポジウムの企画・実施

13

これまでの歩み

- 2009(H.21)年度
 - 先行事例の調査 お茶の水女子大学／東京女子大学
- 2010(H.22)年度
 - 教育改革推進事業《島大GP》に採択される
 - 後期から活動スタート
- 2011(H.23)年度
 - 通年で実施
 - 学生協働交流シンポジウム(第1回・会場:山口大学)を開催
- 2012(H.24)年度
 - 正課ピアサポート・プログラムの一つとなる
 - 図書館の改修工事のため、前期のみ活動
 - 学生協働交流シンポジウム(第2回・会場:島根県立大学)を開催
- 2013(H.25)年度
 - 正課ピアサポート・プログラムとして継続実施中(通年)
 - 学生協働交流シンポジウム(第3回・会場:島根大学)を開催

14

図書館コンシェルジュの構成

- 募集と採用
 - 公募による(毎年3月～4月上旬にかけて募集)
 - 応募資格は2年生以上
 - 職員が面談を実施(基本的に応募した学生はすべて採用)
 - 謝金を支給
- 年度別人数の内訳

年度	女性	男性	合計	次年度への 継続者	卒業生・ 修了者
2010(H.22)年度	3	6	9	4	5
2011(H.23)年度	5	9	14	3	6
2012(H.24)年度	7	6	13	5	3
2013(H.25)年度	8	8	16	-	-

15

図書館コンシェルジュの構成

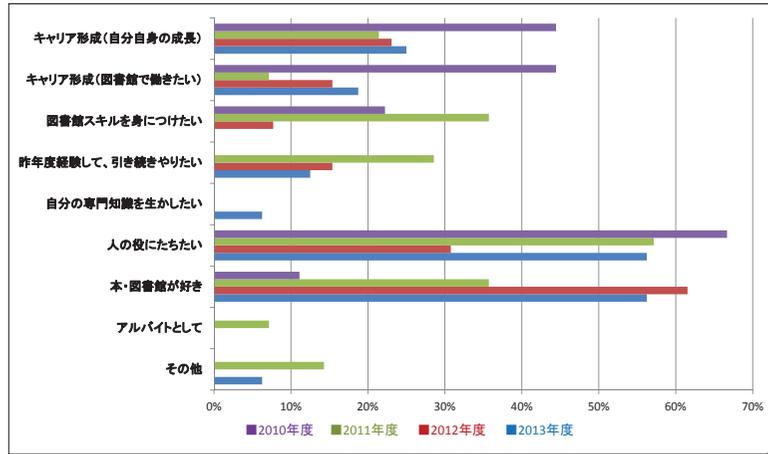
- 2013(H.25)年度の学年別・所属別内訳
 - 学年別内訳
 - 所属別内訳

学年	人数	所属	人数
2年生	1	法文学部	5
3年生	7	生物資源科学部	4
4年生	4	教育学部	1
修士課程1年	1	総合理工学部	2
修士課程2年	2	人文社会科学研究科	1
博士課程1年	1	教育学研究科	2
合計	16	総合理工学研究科	1
		合計	16

16

図書館コンシェルジュの構成

志望動機



研修プログラム

集合研修(3コマ<3時間30分>)

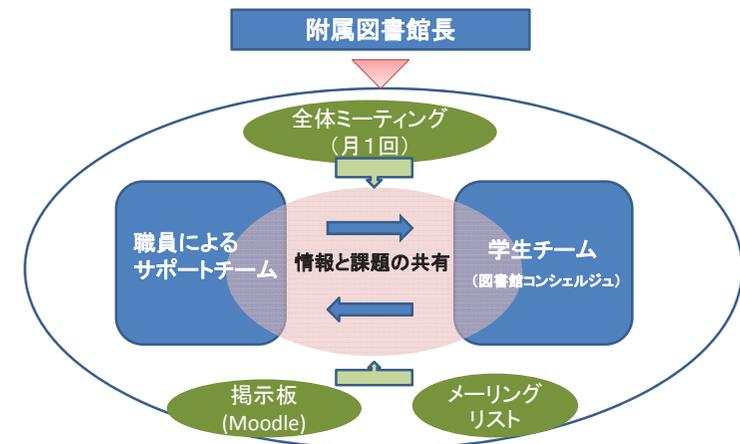
研修項目	主な内容	時間	担当
PCとネットワークの基礎	・PCルームのPCを利用するための基礎知識 ・印刷の仕方 ・無線LAN/情報コンセントの使い方	30分	総合情報処理センター職員
図書館サービスの概要	・請求記号と資料の配置 ・OPAC/MyOPAC ・ILL/配送サービス	90分	図書館職員
情報検索の基礎	・雑誌論文の探し方(Cinii) ・ジャパンレレッジ/理科年表 ・新聞記事検索 ・法令・判例 ・Moodleの使い方	90分	図書館職員

研修プログラム

実地研修(5コマ<5時間>)

研修項目	内容	時間	担当
図書の返却・乱れ直し	・図書の返却作業や書架の乱れ直しをしながら、資料配置を学ぶ	60分	図書館職員
図書館ツアーガイド	・職員を相手にツアーガイドの練習	60分	図書館職員
模擬レファレンス	・職員が利用者役となり、質問をしながら適切な対応の仕方を学ぶ	60分	図書館職員
カウンター研修	・サービスカウンターに座って、実際に利用者からの質問を受ける	60分	図書館職員
ペーパーテスト	・研修の理解度確認テスト	60分	図書館職員

サポート体制



図書館コンシェルジュの活動内容

- 図書館サービス改善の企画・実施
 - コンシェルジュの発案による様々な企画と実施
eg. 書架の分類見出しの作成、館内マップ作成、図書の企画展示、パスファインダー作成、月刊広報誌LiMeの編集・発行 etc. ...
- 正課外での図書館利用サポート
 - 授業時間割に対応した1日5コマに1~2名が担当
 - サービスカウンター／閲覧室フロア(返却作業をしながら)
 - 図書館ツアー(オープンキャンパス時など随時)
- 正課授業と連携したサポート
 - 「スタートアップセミナー」との連携
- 学生協働交流シンポジウムの企画・実施



21

図書館サービス改善の企画・実施 —図書館業務サポート—



館内マップの作成



手作り貸出バッグ



書架の分類仕切り板の作成



手作りしおり

22

図書館サービス改善の企画・実施 —図書館業務サポート—



パスファインダー



「ブックコンパス」(図書の企画展示)



数学の質問箱

23

図書館コンシェルジュの活動内容

- 図書館サービス改善の企画・実施
 - コンシェルジュの発案による様々な企画と実施
eg. 書架の分類見出しの作成、館内マップ作成、図書の企画展示、パスファインダー作成、月刊広報誌LiMeの編集・発行 etc. ...
- 正課外での図書館利用サポート
 - 授業時間割に対応した1日5コマに1~2名が担当
 - サービスカウンター／閲覧室フロア(返却作業をしながら)
 - 図書館ツアー(オープンキャンパス時など随時)
- 正課授業と連携したサポート
 - 「スタートアップセミナー」との連携
- 学生協働交流シンポジウムの企画・実施



24

正課外での図書館利用サポート

● 利用サポートの年度別実績

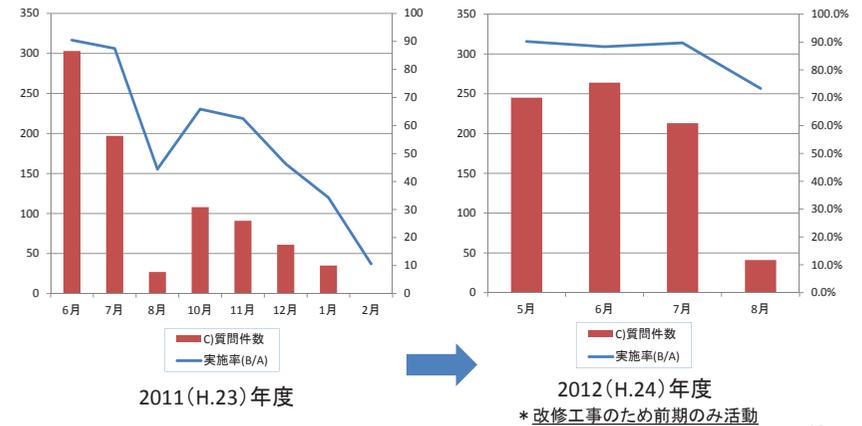
	2011 (H23) 年度 (通年)	2012 (H24) 年度 (前期のみ)	2013 (H25) 年度 (前期のみ)
活動可能なコマ数(A)	804	378	363
活動したコマ数(B)	483	333	334
実施率(B/A)	60.1%	88.1%	92.0%
質問件数(C)	822	763	550
1コマあたりの質問件数 (C/B)	1.7件	2.3件	1.6件

- ・2011年度の実施率が低くなったのは、後期から業務サポートの方に比重を置きすぎて、利用サポートの方がおろそかになったため。
- ・2012年度は、実施率をあげる努力をしたため、質問件数が伸びている。
- ・2013年度(前期)は実施率が高いにもかかわらず、質問件数が伸びていない。原因について突き詰めてみる必要がある。

25

正課外での図書館利用サポート

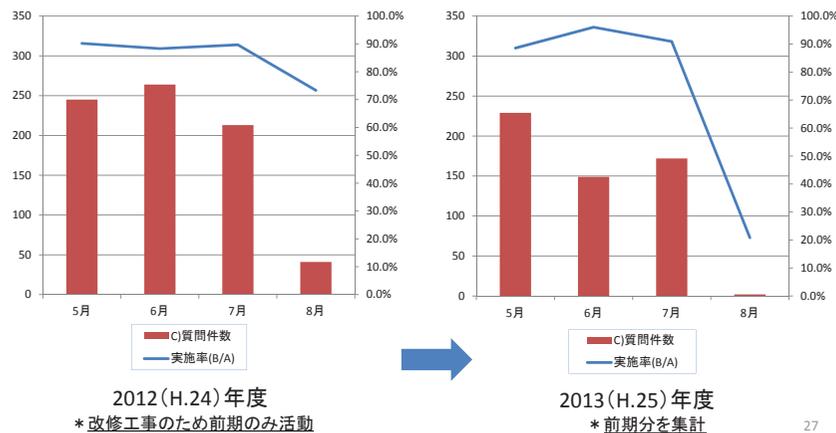
● 利用サポートの月別実績(2011/2012の比較)



26

正課外での図書館利用サポート

● 利用サポートの月別実績(2012/2013の比較)



27

図書館コンシェルジュの活動内容

● 図書館サービス改善の企画・実施

- コンシェルジュの発案による様々な企画と実施
eg. 書架の分類見出しの作成、館内マップ作成、図書の企画展示、パスファインダー作成、月刊広報誌LiMeの編集・発行 etc. ...

● 正課外での図書館利用サポート

- 授業時間割に対応した1日5コマに1~2名が担当
- サービスカウンター/閲覧室フロア(返却作業をしながら)
- 図書館ツアー(オープンキャンパス時など随時)

● 正課授業と連携したサポート

- 「スタートアップセミナー」との連携
- 学生協働交流シンポジウムの企画



28

正課授業と連携したサポート

- スタートアップセミナーとの連携
 - 初年次学生の学習スキル・社会的スキルを身に付けさせることを目的とする共通教養科目の授業
 - グループ毎に決めたテーマに沿って文献調査とフィールド調査を行い、ポスター発表、レポート作成
 - TA(グループ活動全般をサポート)
 - 図書館コンシェルジュ(文献調査をサポート)
 - Moodleで教員、TA、図書館コンシェルジュが情報を共有

29

スタートアップセミナーとの連携 パスファインダーの作成

- コンシェルジュと図書館員が共同で作成
 - 授業で示された複数のテーマについて、図書館コンシェルジュと図書館員が共同でパスファインダーを作成
- グループ毎にパスファインダーを配布
 - 受講学生はパスファインダーを持って図書館で文献調査

30

スタートアップセミナーとの連携 文献調査のサポート

- コンシェルジュは、パスファインダーを持って文献調査に訪れた学生グループに対して、文献案内を行う。
- 探し方や所在場所の案内にとどまらず、できるだけ内容についても案内できるように準備した。
- 実施初年度は3クラス360名(72グループ)の大所帯だったため、図書が特定グループに占有されないようカウンター内に取り置いて、その場で閲覧、複写をしてもらうという変則的な方法をとった。
- 上記方法では、カウンター周りが大混乱したため、2年目からは、書架上にある図書を利用してもらうようにし、貸出せずに複写で対応するよう徹底した。

31

図書館コンシェルジュの活動内容

- 図書館サービス改善の企画・実施
 - コンシェルジュの発案による様々な企画と実施
eg.書架の分類見出しの作成、館内マップ作成、図書の企画展示、パスファインダー作成、月刊広報誌LiMeの編集・発行
etc.・・・
- 正課外での図書館利用サポート
 - 授業時間割に対応した1日5コマに1~2名が担当
 - サービスカウンター/閲覧室フロア(返却作業をしながら)
 - 図書館ツアー(オープンキャンパス時など随時)
- 正課授業と連携したサポート
 - 「スタートアップセミナー」との連携
 - 学生協働交流シンポジウムの企画・実施



32

学生協働交流シンポジウム

- 目的
 - 各大学の図書館で活動する学生協働スタッフがそれぞれの活動を報告し合い、交流することとおして、各大学でのより発展的な活動に結び付けることを目的に開催
- これまで
 - 第1回 2011(H23).9 会場:山口大学
 - 山口大学・梅光学院大学・島根県立大学・島根大学
 - 参加者72名
 - 第2回 2012(H24).9 会場:島根県立大学浜田キャンパス
 - 山口大学・梅光学院大学・島根県立大学・島根大学
 - 参加者82名
 - 第3回 2013(H25).9 会場:島根大学
 - 全国に参加を呼び掛け
 - 上記4大学を含めて15大学、100名が参加

33

学生協働交流シンポジウム

- 2013(H25)年度のシンポジウムの模様



基調講演



学生協働スタッフによる報告



ポスターセッション



全員参加によるワールド・カフェ

34

評価の視点

- 図書館コンシェルジュの目的毎にどのような効果があったかを見してみる
- 図書館コンシェルジュの目的
 - 1) 図書館サービスに学生の視点を取り入れて図書館利用を活性化させる
 - 2) サポートを受ける学生の図書館や学術情報を使う力の育成を支援する
 - 3) 図書館コンシェルジュとなった学生自身の学びと成長(キャリア形成)を支援する

35

評価

図書館利用の活性化

- (目的1) 図書館サービスに学生の視点を取り入れて図書館利用を活性化させる
- 現時点での評価は困難
 - 入館者数、貸出冊数は増加傾向にあるが、他の要因による影響も考えられるため、コンシェルジュの活動をこれらの数値の変化に直接結び付けることはできない。
 - 自主企画で実施された様々な活動(図書の企画展示、貸出バックやおりの作成、七夕・クリスマスの飾り付け...)は、以前と比較すると確かにある種の賑わいをもたらしているが、主観的な感想の域を出ない。
 - 実施した活動がどのような効果をもたらしたのかを事後に評価できるように、活動ごとにアンケート調査等を実施したい。

36

評価 サポートを受けた学生のスキルの向上

➢ (目的2)サポートを受ける学生の図書館や学術情報を使う力の育成を支援する

● 現時点での評価は困難

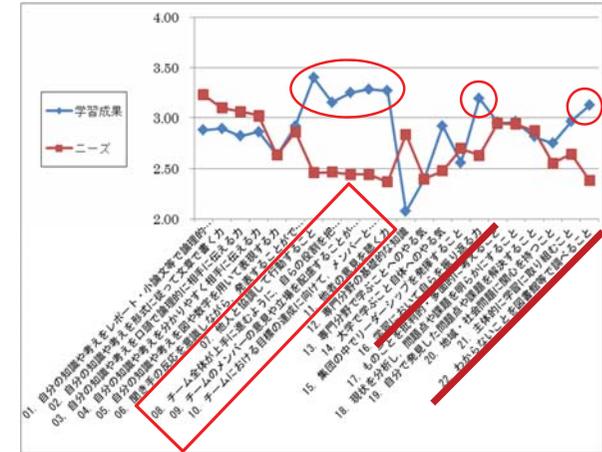
- カウンターでの利用サポートを受けた学生の図書館利用や学術情報活用のスキル(学術情報リテラシー)がどのように向上したかを評価できるデータはとっていない。
- 今後、サポートを受けた学生に対するアンケート調査等を検討している。
- 正課授業(スタートアップセミナー)と連携したサポートについては、2011(H23)年度の授業後に実施されたアンケートの結果を参考に付す。

37

(参考)スタートアップセミナーとの連携 評価(学習成果)

ポイントが高い項目

- チームによる協調学習に関する点
- 学習において自らを振り返る力
- わからないことを図書館等で調べること



授業後のアンケートより

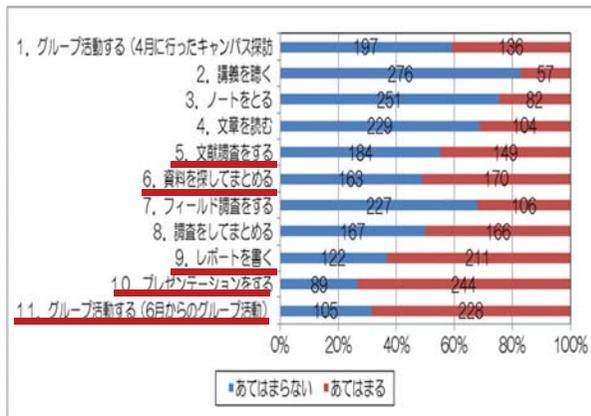
38

(参考)スタートアップセミナーとの連携 評価(授業内容で役立つ点)

ポイントが高い項目

- プレゼンテーションをする
- グループ活動する
- レポートを書く

◆ 文献調査、資料を探してまとめるは上記に比較して評価は高くない



授業後のアンケートより

39

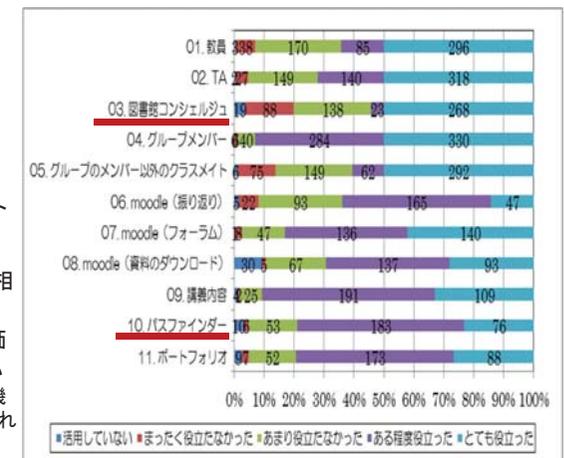
(参考)スタートアップセミナーとの連携 評価(グループ学習を行う上で役立つ点)

「とても役にたった」 ポイントが高い項目

- グループメンバー
- TA
- 教員
- グループ以外のクラスメイト
- 図書館コンシェルジュ

◆ ただし、人的支援の中では相対的に低い

◆ パスファインダーは低い評価
(* 図書をブックトラックに取り置いたため、パスファインダー本来の機能が発揮されなかったためと思われる)



授業後のアンケートより

40

(参考)スタートアップセミナーとの連携
評価 (TA/コンシェルジュはどういう存在か)

- ポイントが高い項目
 - アドバイザー
 - 頼りになる大学の先輩
 - 教員の代わりに教えてくれる人
 - 評価者
- ◆ 教員(教える・評価する・管理する人)に近い存在として捉えている



授業後のアンケートより

評価
サポートする側の学生の学びと成長

➢ (目的3)図書館コンシェルジュとなった学生自身の学びと成長(キャリア形成)を支援する

● 方法

- 2012(H24)年度の活動終了時に提出してもらった活動報告のレポートを分析、次の項目に該当する記述を抽出し、件数をカウントした。
 - 1) 自分自身の成長を感じた点
 - 2) 気づき・発見
 - 3) 達成感・満足感
 - 4) 戸惑い・不満

評価
サポートする側の学生の学びと成長

● 1)自分自身の成長を感じた点

項目	人数
コミュニケーションスキル	8人
図書館利用スキル	7人
主体性・積極性	5人
キャリア形成	4人
ICTスキル	2人
リーダーシップ	1人
その他	1人

評価
サポートする側の学生の学びと成長

● 1)自分自身の成長を感じた点

項目	記述例
コミュニケーションスキル	利用者の質問に対して、適切な言葉を選び、分かりやすく説明する力が身につきました。
	利用者の方に図書館の利用方法などを伝えることを通して、相手に物事を分かりやすく伝えるにはどうしたらいいか、などを考えるきっかけになったと思う。
図書館利用スキル	図書館を使いこなすことができレポートを書く際にも文献探しに役立ちました。
主体性・積極性	利用サポートを行うにあたっては最もよい対応を行えるよう意識・行動することで、自己のサービス精神・対応力が培われた。
	言われたことをこなすアルバイトとは違い、業務サポートという自ら考えて図書館をよくしていくために活動できるということは、コンシェルジュの魅力の一つだと思います。
キャリア形成	将来のことを考える上で役立った。働くことへの意識が高まった。
	活動を通じて利用者への接し方や社会人としてのマナーを学びました。

評価 サポートする側の学生の学びと成長

2) 気づき・発見 (7人が記述)

記述例

図書館を利用することは多々ありましたが、サポートする側に立ってみると違うと感じました。業務する側からみてどうしたらよりよくなるかについて考えるようになりました。

本を貸し借りするだけでなく、自分の知らない図書館のサービスについて知ることができました。また、コンシェルジュのしきり版の活動は、利用する立場からみてもわかりやすく、館内マップなども入学当初のうちはわからなかったのでよくみてました。これらの活動をはじめとして快適に利用してもらうために、さまざまな工夫をしているのだなというのに気付かされました。

返却された本を返したり、書架の整理をすることで、自分が関心がなかった本を、手に取る機会が増え、今まで見出せなかった興味を感じられるようになった。自分の場合は統計学や経済学などは縁のないようなものとしていたが、たまに手にとって捲ってみたりと、興味のなかった本にも接することができた。

45

評価 サポートする側の学生の学びと成長

3) 満足感・達成感 (10人が記述)

記述例

難しいと思うこともあったが、やってよかったと思えるものでした。今後に生かしていければと思います。

最近、(メインカウンターにいる)職員の手が空いていても、コンシェルジュの方に質問をしに来る利用者さんが増えてきてとても嬉しいです。利用者にとって頼れる存在になるために、精進していきたい。

コンシェルジュの活動は1回生のときからやっていたのですが、毎年異なるメンバーと、とても楽しく活動することができました。この3年間でとても貴重な経験になりました。みなさん今までありがとうございます。

パソコンが大の苦手であった私がきちんと活できるのか、はじめは不安でしたが、多くの職員のみなさんや仲間を支えられて、ここまでくることができました。この期間に得たことをこれからの人生に活かし、有意義な人生を送ろうとおもいます。いままで、本当にありがとうございました！

46

評価 サポートする側の学生の学びと成長

4) 戸惑い・不満

項目	人数
業務上の物足りなさ	8人
業務上の改善点	5人
コンシェルジュ同士のコミュニケーション	2人
職員とのコミュニケーション	2人
研修	2人
その他	2人

- ✓ 業務上の物足りなさを指摘した8人の内の7人は、利用サポート時に質問を待つ時間の手持無沙汰を指摘したもの

47

評価のまとめ

- コンシェルジュのサポートを受けた学生のスキルがどのよう向上しているかについては、今後評価方法を検討する必要がある。
- コンシェルジュの学びと成長については、コミュニケーションスキルの向上、図書館利用スキルの向上、主体性・積極性の向上、キャリア意識の面で、自己評価が高く、また満足感・達成感も高い評価であることから、コンシェルジュの活動が学生自身の成長に寄与していることが見て取れる。
- 業務上の物足りなさの感覚が、モチベーションの低下につながらないよう、活動内容を工夫する必要があるだろう。
- コンシェルジュ同士、コンシェルジュと職員間のコミュニケーションの不全が、活動の停滞につながらないよう、コミュニケーションを円滑にする工夫が必要。

48

課題と対応

- 学生スタッフ自身による主体的・自立的な組織運営
 - 毎年、メンバーの何割かが入れ換わるため、年度によっては、活動が不活発になることも。様子をよく観察して、主体的な行動ができるようになるまで、職員がある程度深く関与することも必要
 - ◆ e.g. コミュニケーションの活性化を図る → ランチミーティングを毎週実施
 - やる気のある学生の確保を学生スタッフ自身で
 - 学生スタッフの中である程度のスキルの継承ができるように
- 活動の活性化と高度化
 - 利用サポート時に質問を待つ間の退屈感が活動のモチベーションを下げないような工夫が必要
 - ◆ e.g. 利用サポート時に質問を待つ間に、業務サポートをうまく組み合わせる
- 継続性の確保
 - 財政基盤の安定化

49

今後の展開

- 図書館を核としたラーニング・コミュニティの形成に向けて
 - 図書を始めとする文献資料、PC・ネットワーク環境など学習のためのリソースが整っている図書館は、授業の予習やレポート課題、グループによる協調学習の場として最適
 - 学習支援を行う様々なピアサポーターを図書館に組織的に配置することで、授業外学習の場としての図書館の機能を一層高めることができる
- 図書館利用支援＋直接的な学習(学修)支援へ
 - 試行的に館内に配置されている学習サポートデスクを活性化させるための働きかけ

50

ご清聴ありがとうございました。

島根大学附属図書館 昌子喜信
shoji@lib.shimane-u.ac.jp



51

参考文献

- 日本学生支援機構. 大学、短期大学、高等専門学校における学生支援の取組状況に関する調査(平成22年度)集計報告. 2011.6. p.75-76.
- 杉村和美ほか. ペア相談と学生の主体性を取り入れた大学でのピア・サポート活動: 名古屋大学における実践を通して. 青年心理学研究. 2006, 18, p.51-62.
- 呑海沙織, 溝上智恵子. 大学図書館におけるラーニング・コモন্ズの学生アシスタントの意義. 図書館界. 2011.7, p.181.
- ふじたまさえ. “学生と図書館の協働事例まとめ”. ラーコモラボ通信. 2012, 16. <http://archive.mag2.com/0001260410/20121126142822000.html>. (参照 2013/10/24)
- 八木澤ちひろ. 大学図書館における学生協働について: 学生協働まっぶの事例から. カレントアウェアネス. 2013.6, No.316.
- ku-librarians勉強会. “学生協働まっぶ”. <http://dl.dropboxusercontent.com/u/15665405/map/index.html>. (参照2013/10/24)

52